

2018 年度春季海外研修（スペインコース）研修レポート

総合政策学部 Mさん

私は、H. I. S のアルカラ大学スペイン語研修に参加しました。私は、このスペイン語研修が初の海外渡航でした。スペインに行くことをすごく楽しみにしていましたが、それ以上に初海外の不安が大きかったです。しかし、スペインに着いてから、その不安は払拭されました。なぜなら、頼りになる添乗員さんと、たくさんの同年代の学生と一緒にいたからです。添乗員さんは2名いらっしゃいましたが、どちらの方も話やすく気さくで、あっという間に学生たちの人気者でした。スペインに行きたいと思ったとき、個人で行くか、今回のツアーで行くか迷いましたが、ツアーを選んで正解でした。個人で行くよりお金はかかりますが、安心感が圧倒的に大きいし、友達もできるし、素敵な場所にたくさん連れて行っていただけるので、支払ったお金以上の満足感がありました。

今までは、座学で語学を勉強してきましたが、文法や単語を学ぶことと実際にしゃべることは全く違うものだとわかりました。実際に現地に行くことで、スペイン語を使えるようになりたいという思いが非常に強くなりました。

1. 授業について

授業は平日の午前9時から11時、11時30分から13時30分の2コマでした。内容は、自己紹介や母国の紹介、スペインの紹介、バルやレストランで使えるスペイン語など、基本的な語彙や文法で、スペインに滞在するうえですぐに役立つものでした。加えて、視聴覚教材を多く使ったり、グループワークが多かったりと、楽しく受けることができました。最初のうちは先生が何を言っているかわからず、授業がどんどん先に進んでしまって焦りました。しかし、2週間目は1週間目よりうまく聞き取れ、3週間目には先生の言うことが1回で理解できることが多かったです。また、先生の言ったことがわからなかった時や知らない単語があるときは素直にわからないということ、間違ってもいいから積極的に声を出すことを心掛けて理解を深めることができました。

2. アクティビティについて

スペインの様々な地域を添乗員さんと一緒に回りました。スペインは治安が良いといいますが、言葉が通じないし、日本と勝手が違うことも多いので、スペインに慣れている方と一緒に観光できるのは安心でした。加えて、定番の観光スポットにも、観光ではめったに足を踏み入れることのないディープな場所にも案内してくださるので、とても内容の濃い観光ができました。添乗員さんは、スペインで有名なカフェや

レストラン、お土産の情報などを教えてくださいるので、スペインの良いモノだけを堪能できました。

3. ホームステイについて

私のホームステイ先にはママと25歳の息子と犬がいました。スペインの人はおしゃべりが好きだと事前に聞いていましたが、私のママは比較的静かな人でした。たくさんはしゃべらないけど、話しかけてくれるし、こちらが話しかけるとゆっくり話を聞いてくれました。ママも息子さんも料理がとても上手でした。息子さんはお料理の学校で学んだことがあるとっていました。ママは、ご飯だけではなく、おいしいチョコレートケーキやチーズケーキなどを作ってくれました。ホームステイだけど、ずっと家でご飯を食べているわけではなく、複数回友達とバルに行ったり、お昼ご飯を食べに行ったりしました。

家は学校から15~20分くらいのアパートでした。少し遠めですが、街並みが伝統的で美しく、加えて歩くことが好きだったので遠く感じなかったです。登校路には、サンタマリア大聖堂や、アーモンドの並木道があって、毎日歩くのが楽しかったです。アーモンドは、桜に似たピンクの花で、ちょうど春の研修の時期に満開になるようです。

ホームステイをすることで、家で宿題以外の学習もできるし、何よりもっとスペイン語をわかるようになりたいという意欲が強く湧いてきました。加えて、家でもよく単語を調べるので、すぐに辞書を引く癖がつかまりました。

今回この研修を通して、ただ海外旅行をするだけではできないような経験や出会いをできました。加えて、スペインに行くことで、スペインの素晴らしさはもちろん、日本の良さ、自身が住んでいる盛岡の良さを再確認、新発見することができました。これは、一層大切にできる貴重な経験です。この研修にかかわる皆様にたくさんの感謝をしています。ありがとうございました。

●ことの成り行き

第2外国語の授業としてスペイン語を履修した。それがスペイン語との出会いである。そのスペイン語がとても面白かったのである。中学生の頃から英語への苦手意識が高く、試験に合格するための作業のように勉強していたために、初めて外国語を学ぶことが楽しいと感じたのだ。しかもスペイン料理はどれも美味しいらしい。サグラダファミリアの実物が見てみたい。カンブノウとベルナベウで本場のサッカーが観てみたい。これは、スペインに行くしかない！

●出発まで

正直、初めての海外だったこともあり、留学するか否か自体かなり迷った。それは、金銭的なこともあるし、治安のこともだ。しかし、今行かなかったらいつ行くんだ！というわけでスペインに行くことを決めたのである。アルカラ大学の研修に参加することにしたのは、スペインをよく知る方が添乗してくれるため安心して行くことができると思ったからだ。それと、「語学・文化研修」という点も良い。スペインの歴史や美術、スポーツなど、語学だけでなく文化にも触れることができる。語学をしっかりと学びたい人には少し物足りない研修かもしれないが、短期間で語学と文化に触れたい欲張りな私にはぴったりのプログラムであった。

申し込みは10～11月頃にした。締め切りは12月の上旬であったと思う。年明け前に研修の申し込み用紙と保険加入の案内がHISから自宅に届き、各書類を提出した。私が行った研修では合計で31名の参加であったので研修費用は379,000円。それに燃料サーチャージや保険、その他の税金が加わって合計で448,990円であった。現地での食事代やお土産代、各アクティビティの参加費を含めると、55～600,000円くらいかかったであろうか。

●授業について

授業は平日に行われ、9:00～13:30休憩30分を挟んで2時間×2コマの日程であった。前半の2時間は文法、後半の2時間は実践の授業ではあったが、いずれも先生と生徒とのコミュニケーション中心の実践型授業だった。毎度の授業でそれぞれ課題が出された。担当の先生にもよると思うが、初日にパワーポイントを使う課題が課されたので自分のパソコンを日本から持参すると安心だ。アルカラ大学のパソコンのバージョンが非常に古く、使うことができなかった。

●アクティビティについて

平日は授業後、土日にアクティビティが行われた。アルカラ散策やマドリード半日観光、バルセロナ観光など、全て希望制の参加であった。初めてのスペインであったので、これらのアクティビティは非常にありがたかった。バスや電車の乗り方、オススメのバル

などの有益な情報を教えていただいたので、他の日に友達とマドリードへ遊びに行ったり、バルで食事をしたり、おかげでとても充実した日々を送ることができた。

それぞれの参加費は現地で現金での徴収であった。そのため、あらかじめどのアクティビティに参加するかを決め、その分の現金を日本で用意する必要がある。

●治安について

アルカラに関しては日本とほとんど同じ感覚で生活できた。マドリード、バルセロナでは貴重品はセキュリティバックに入れたり、バックは常に前にかけてりするなど十分に用心した。そのおかげでスリの被害には合わなかったが、参加者のうち1人が財布をすられる被害にあった。しかし原因は明確で、財布をむき出しにしていたらしい。しっかりと対策しておけば心配はないだろう。

●感じたこと

迷いながらも参加してよかったと心から思う。世界が広がり、考え方・感じ方が行く前と後では大きく変化した。そこで得たものは文章ではとても表現しきれない。もしこのプログラムに参加するか迷っている人がこの文章をみていたら、是非とも参加してほしい。海外に行ったことがない人なら尚更である。私は、これからも引き続きスペイン語の学習を頑張っていこうと思う。

総合政策学部 Kさん

小さい頃からサッカーをしており、その影響でサッカーの本場スペインに興味がありました。大学の授業でスペイン語を勉強していたので春休みで時間もありませんと留学を決めました。約3週間という短い期間ではあったが、初めての海外でもあり、期待よりも不安の方が大きく特に最初のフライトは緊張しました。

留学先のアルカラ大学での最初の授業は先生が何を言っているかサッパリ分からず結構回りました。授業はいくつかのコースに分かれていて、私は超初心者コースでした。一日90分の授業が2回です。アルファベットから始まって、英語で言う5W1Hや、前置詞などをやりました。授業中はすべてスペイン語だったので、正直、苦しかったです。

何日か生活をしてまず驚いたのは言葉です。留学する前はスペイン語で伝わらなかったら英語で伝えようと思っていましたが、スペインでは英語は若者しか使えず大人や年配の方には、全く伝わらなかったことです。さらに加えてスペインには、あまり知られていませんが5つの公用語があり、バスク地方で話されているバスク語、ガリシア地方で話されているバスク語、ヴァレンシア地方で話されているヴァレンシア語、カタルーニャ州リエリダ県で話されているアラン語、カタルーニャ自治州で話されているカタラン語があり、社会的に認められた言語であるため、街中のちょっとした広告、カフェのメニュー欄まで様々な言語で書かれていて慣れるまで大変でした。

治安についてですが大体マドリード、バルセロナにすり、引ったくり、かっぱらい（地下鉄へ向かうエスカレーターで、にせ警察官、観光名所で上を見上げてたら、腰につけてたポシェットから財布盗まれた、など）などが集中していると言われます。実際に私の友達も現地ですられました。

私は、公園でも人通りが多いところに行き、道も大通りを歩き、夜中の一人歩きは控えるようにしました。財布も持たず、お金は使う分だけポケットに入れておいて、パスポートや残りのおかねは肌身はなさず持つておくようにしていました。

スペインは思っていたよりも安全でした。本当に本当に良い人たちばかりでした。私は30回くらい道を尋ねたのですが、一度も断られませんでした。きちんと立ち止まって、一緒に地図を見て、必要であれば紙に書いて説明もしてくれました。レストランなどでもとても親切で、思いやりのある人たちばかりでした。それでも、一人で大きい都市を旅行したときは、細い路地には入らない、夜7時にはホテルに入る、地下鉄では旅行者のそばを歩く、こまめに後ろを振り返る、など、防犯にはかなり気をつけました。経済面ではユーロと円のレートの違いになれず、かなり苦しかったです。1.5倍の買い物をした感じでした。交通は、バスが便利でした。異文化に触れることは、身体全部が刺激されるのでとてもおすすめです。

絶対に学生のうちに一度は行くべきと感じました。自分一人ですることと、一人ではできないことがとてもよくわかりました。やはり言語は現地に行かないとピンとこないな、と感じました。覚えられなかった単語や用法も実際に聞いて使えば一発で分かるし、いちいち日本語に置き換えるストレスがないので楽しいと感じました。日本とスペイン、ヨーロッパの違いを感じて、日本の良いところ、悪いところに気づき、自分が日本人であることの自覚と自信も生まれました。各国の非常に多くのことが学べた有意義な3週間でした。